



## 水中独り言

### (1) 温水プールを歩く

数ヶ月前に妻が箱根にきれいな町営の温水プールを発見、月4回を目標に通っています。これが私達の体にあっているようで全身に効果を感じています。

自宅から山を越え車で40分。色彩豊かな紅葉に迎えられての林道をドライブ、優雅である。

25メートルのプールは30℃、35度で水深130センチのジャグジー付きの歩行専用プールと41度の小さい円形風呂が中央にある。自分の好み、体調によって自由に時間が過ごせる。1日300円と有難い施設である。水の中で唯、歩くのが目的であるから、どんな目標を持てばいいかを考える。とりあえず、50メートルを何秒で歩けるか？を試してみた。80秒なら負荷を感じないが75秒にすると一服したくなる。70秒にするとハアハアとなる。5秒というチヨっとは想像以上に大きいと感じる。次にバックで歩く、横歩きを試してみる。単純な往復歩きにすぎないが、いろんな工夫があって楽しく歩いています。

### (2) 時間を忘れた

時間を計っているのに時間を忘れるという不思議な時間の流れを感じます。

現役時代は時間を気にして時間に追っかけられ、それが仕事であり、社会的生活の基本スタイルでした。

今プールの中では、「何も考えていない時間」があることにも気づかない自分に出会う。嗚呼「何も考えていなかったんだ」と独り言が声になる。なんと幸せなことぞ！

何も考えていない時の至福感は私にとっては熟睡感に似ていると思った。心にひっかるものがなく晴天なり。般若心経の一説を思い出した。

故心無圭礙 無圭礙故無有恐怖

### (3) 川の流れのように

時間は川の流れにも似ていると思う。時間が流れると川の流れと同じように岩や木々など色んな不測のもの固いもの汚いものにぶつかる。怒濤の川は怖いけれど、せせらぎは湖面に自然を写し穏やかにながれる。水は流れないと腐り始める（水五訓）自分の意図にかかわらず人工的に流れを変えられることもしばしばある。水は枯れない限り川は流れなければならない。止まることができない川と時間。

だが人には時間の中に”瞬間”というものをを感じる力がある。その一つが達成感だろう。至福感もそうだろうか？

それらの感じを味わった時には感謝の気持ちが自然と湧いてくる。

達成感と至福感に何かの関係があるか？

達成感の蓄積と至福感の関係があるか？

水中を歩きながら考える。達成感は目標が前提にあり、人が積極的に関わり勝ち取るものだが、至福感は受動的で与えられるもの。

そうだ！キーポイントが見つかった。水中でとびあがったら次の足が地に着かず滑ってしまった。自分が今何をしているのかも忘れるのも至福感か？

ベートーヴェンの第九の合唱の意味を知る一つの手がかりになるようだ。

#### (4) 12月22日00時からの放映に注目

今月はズービン・メーターの「第九」を2回聴きに行った。6ヶ月前からの予約を懸命に取って期待に心が躍り続けていました。東京バレエ団の創立50周年事業の一環でNHKも力を入れた鳴り物入りのバレエ付きの第九演奏会。ズービン・メーターさんは私にとっては初めてのあのウイーンのジルベスターコンサートの指揮者、東日本大震災への祈り篤き人としても有名な人。幸いなことにNHKで放映されます。12月22日00時BSプレミアムです。録画の価値があります。日本人では既に熊川哲也さんが自ら振り付け踊っています。これも素晴らしい、私個人として感じることは日本のバレエは世界水準にあるということ。楽章ごとの振り付けを比較するのも興味あります。

フィギュアスケートで町田 樹選手が第九で滑る映像をみました。これも凄いです。日刊スポーツの記事から引用しました。

今季初戦にして、いきなり観客を圧倒した町田は大きく肩で息をしながら、放心状態でひざを折った。リンクに突っ伏す。「交響曲第9番」を作曲したベートーベンのように長い巻き髪も大きく揺れる。12年12月、GPファイナルと全日本選手権に惨敗し、頭を丸刈りにしてから2年弱。「人生最長」に髪が伸びるほどに成績も伸び続け、「過酷だったが、歓声で全てが報われた。今の時点では100%。満足している」と自信満々に振り返った。

冒頭の約10秒間、曲が流れ始めてもポーズを決めて動かない。一気に会場の視線を引きつけ、「第9」を表現していった。冒頭の4回転、続く4回転-2回転ジャンプ。安定感は前日のSPと変わらない。誰もが知る曲だけに「水準が高くないと、埋もれてしまう」と覚悟があった。曲に戦わせるように技をぶつける。「歓喜の歌」の合唱パートに入ると、ほほ笑んだ。終盤は得点源の3回転半を2回転半に抑え、3回転フリップは手をつくミスで3連続ジャンプにできなかったが、「まだ伸びしろがある。軽く20点ぐらいは上がる」と前向きにとらえた。(引用終わり)

## 衆議院総選挙

色々批判のある解散ですが、なってしまった以上、受け入れるしかないのが国民です。解散権を行使したご本人は消費税増税時期の変更を問題にしていますが、この人も裏面交流の達人ですから、国民は彼の建前の裏にある本音を読み取る必要があります。

国の債務が1000兆を越えてしまった以上、消費税の増税は時間の問題だけです。何の論点にもならないと私は考えます。新政権のもとで本音の部分を「国民の信任を得た」と言ってひた走りするための選挙です。

本音の論点は

- (1)集団的自衛権の法整備――憲法第九条の強引な解釈から憲法改正への道をつける
- (2)特定秘密保護法の制定――政府の情報隠しの範囲を広げること
- (3)原発の再稼働――脱原発の意見を無視

この三点に共通することは「戦争の出来る国に帰ることを目指す」(帰るは誤字ではありません)

残念ながらこの三点を主張する政権政党はありません。ですから投票率は低くなる。それも自民党の読みの内でしょう。

来年は敗戦70周年の年です。少数の健全左派の動きも底流にあります。太平洋戦争の実体をよく学び、賢明な少数者がいたことを子孫に残すことも、子孫が勇気づけられることを信じて投票に行きたいと思えます。

経済政策では誰が総理になっても同じです。ここまですればいつかは全国民の産みの苦しみは避けられないでしょう。いまの右寄りが進みますと経済の苦しみの上に基本的人権も否定されますから二重の苦しみを一挙に味わうことになりかねません。せめても基本的人権だけは保障される世界で経済の立て直しができるという希望は残したいと考えます。